

経管栄養(経鼻) チューブを鼻から胃に通し栄養や水分を注入する方法

必要物品

□栄養ボトル(栄養管含む) □注射器(シリンジ) □聴診器 □後押し白湯

手順	留意点	
1)手を洗う。		
2) チューブの固定の長さやテープの固定位置を確認する。	チューブの固定の長さ(挿入長)は家族に確認しておく。テープが剥がれていたり、チューブの固定がゆるんでいたら、テープを固定しなおす。	
3)チューブが胃内にあるか、胃内に水分や栄養剤が残っていないか(胃残)を胃内容物を注射器(シリンジ)で吸引し確認する。	胃残がない場合は、聴診器を胃部に当てて、注射器(シリンジ)で3-5mlも空気を注入し、気泡音(ポコポコ音)が聴取できるか確認する。	
4)水分(栄養剤)を、常温または適温に温め、栄養ボトルに移す。滴下筒をゆっくり押しつぶし、半分まで満たし滴下を確認できるようにする。栄養管のチューブを水分(栄養剤)で満たす。	注入内容を確認し、クレンメを閉めて、指示量を栄養ボトルに入れる。	
	接続するときは、栄養チューブのふたを開ける前にチューブを指で屈曲させて胃内容物が出てこないよう閉鎖する。	
5)注入中に体位を整え、栄養ボトルと栄養チューブを接続し、クレンメをゆるめ、水分(栄養剤)を滴下させ注入を開始する。	注入中はむせ、せき込み、悪心・嘔吐、腹部膨満、チアノーゼの有無を観察する。症状がみられた場合は中止する。	
6)注入が終わったら、栄養チューブから栄養管を外す。栄養チューブに、あらかじめ冷ましておいた白湯を5-10ml程度(栄養チューブの長さの分量)流し、栄養チューブにふたをする。	注入が終わっても、30-1時間はそのままの体位でいるようにする。	

7)後片付け		
栄養ボトル(栄養ボトルを含む)と注射器(シリンジ)などは中性洗剤で洗いきれすぎ、洗浄後はよく乾燥させておく。注射器(シリンジ)の内筒を外して洗う。	注射器(シリンジ)の外筒や栄養ボトルはカップ用のスポンジを使用すると、なかまできれいに洗うことができる。栄養管は、なかに熱めのお湯を流すと、栄養剤に含まれる油分が落ち、きれいに洗える。	

こんなときはどうする？

Q 胃残はなにを確認すればいいの？

性状、量を確認します。

水分・栄養剤が少量→戻して予定量を注入します。

水分・栄養剤が多量→時間をずらす、または差し引き注入、または濃度を薄くします。

透明で胃液様のもので戻して予定量注入します。

血液が混じったもの→破棄して予定量を注入します。

※胃残の多量の判断基準、ずらす時間の目安、注入する水分や栄養剤の濃度・量は、あらかじめ主治医の指示を確認しておきましょう。

Q 注入中にチューブが抜けてしまったら、どうすればいいか？

チューブが抜けたり、抜けかかっているとチューブの先端が、食道や喉に上がってきて誤嚥性肺炎を起こす危険性があります。注入を中止し、チューブは無理に入れ直さずに、抜いてしまいましょう。

せき込みや、嘔気・嘔吐の有無、顔色、呼吸状態を観察します。

Q 吐いてしまったときはどうすればいいか？

注入を中止します。注入の速度や体位を確認します。速度がはやいと嘔吐の原因となります。体位は頭の位置を高くしましょう。